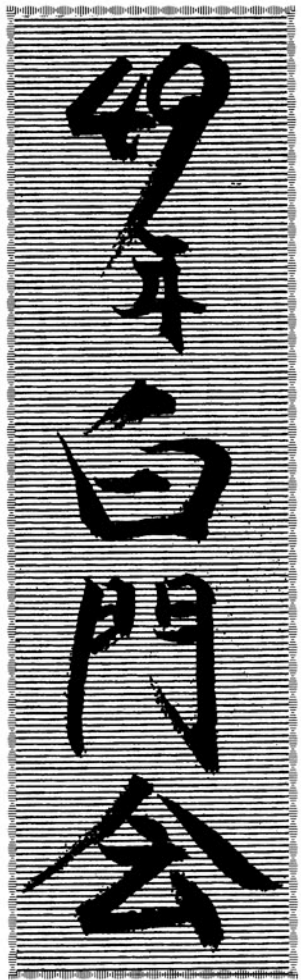


49年白門会のホームページ

<http://www7.plala.or.jp/hakumon49/>



(題字・葛西 聖司)

創立5周年を迎えて

49年白門会会長 山崎厚太



実にたくさんのお出来事があった、長い期間だと思います。

49年白門会は平成17年7月1日、創立5周年を迎えます。これもひとえに皆様の熱意と協力の賜物と思えます。厚くお礼を申し上げます。

さて、5年前というと平成12年です。5年間の出来事といえは、平成12年ブッシュとゴアとの大統領選、平成13年海保と不審船との銃撃戦、平成14年拉致被害者5名帰国、平成15年米軍イラク侵攻、平成16年薬大・ソフトバンクのプロ野球参入がありました。一つ一つ思い出してみれば、5年間というのは短いようですが、

我々自身もこの5年間は、お互いいろいろなことがあったと言えるのではないのでしょうか。ご本人の職場が変わった方、独立された方、お子さんが結婚なさった方、また、大変残念でありますがお亡くなりになられた会員もいらっしゃいました。

我々の5年間の振り返ると、何と云っても大きな財産は、在学中はほとんど面識も無かった者同士が、親しく口を利くようになったことだと思えます。仕事を離れてこれだけ多くの人が一度に知人になれることは無いでしょう。

今、御祭の水校舎はありませんので、我々のよりどころといえはOBとの交流になります。地域の支部

CONTENTS

- 1 ページ
 - ★創立5周年を迎えて 山崎 厚太
- 2 ページ
 - ★友へのメッセージ 日高 定昭
 - ★総会のお知らせ
 - ★広告募集
- 3 ページ
 - ★満開!花見行
 - ★楽苦我喜(らくがき) 浜手 基親
- 4 ページ
 - ★新年会レポート
 - ★会費納入のお願い
 - ★原稿募集
 - ★編集後記

では年代が違い過ぎてしまいます。その点、同期の会は話題も共通で気が落ち着くと思います。更に、山崎司平さんが同期の手術のために行った募金集めなど、同期ならではのこともできます。

同期だからやれる事

さて、皆さんは、今自分がやりたことを我慢していませんか、自分がやりたいことを我慢するのは、周りから「いい年をして」と言われるのを気にしているからですか。しかしながら、若い時は恥ずかしがらず何でもやったのではありませんか。

「いい年をして」と言われる方が、若々しいことはありませんか。年代の違っ中ではなかなかできないことも、同じ世代、同じ時代を共有した仲間同士なら、多少羽目を外したことも計画し、実行できるのではないのでしょうか。これから5年後の創立10周年に向け大いに羽目を外すくらい色々なことに挑戦しようではありませんか。

年次支部は卒業が昭和20年代、平成16年までありますが、現在は、卒

業が昭和30年代後半、昭和40年代前半の人達が中心になって動いているようです。我々の年次もあと10年弱で「中央大学学員会」の中核を担う年次になってきます。その時慌てないように今から少しずつ同期の会員を増やしていく必要があります。あらゆる機会に知り合いを勧誘してください。そして、我々の年次から次の年次に責任を持ってバトンタッチしましょう。

最後に、1周年の寄付になりましたが、まだ締切りまで期間があるからと後回しにしている方がおられます。早めに手続きをお願いいたします。まだお決めになっていない方、分割可能ですから、この機会に是非お手続きをお願いします。尚、お手続きに当たっては、「49年白門会」会員であることを合わせてご記入ください。

それでは、総会で又お会いいたしましょう。



友へのメッセージ

大学の教員として20年以上経営学を講じてきた。学生には経営学を教えるにしても、彼ら、彼女らが将来自信を持って人生を生きていく、何か信念のようなものを、植え付けることができればと考えてきた。そして常々言ってきた。異文化に触れること。それが20年ほどほとんどが、いわば単一文化の中で生きてきた人を見つめ直すことにつながる。その手取り早い方法は外国に行くことである。しかも、お仕着せのツアーではなく、自分で計画を立て、自分の責任で外国で生活すること。それもなるべく早く。それはまた、冒頭の自信を持って生きていくこととも結び付く。

ある時、何気なく娘にも「外国に行くべき」とくに語学はその国で学ぶべき」と言った言葉が、そののち尾を引くこととなった。大学受験をして、娘は幾つかの合格通知と不合格通知を受け取った。さてどうするか、娘の選択を待っている私に、「私はフランスに行きます」。それが娘の口から出た言葉であった。学生には気軽に外国に行け、外国で生活しなさいと言ってきた。それが我が身に降りかかってきたのである。「若い娘が一人で外国で生活するなんてダメだ」と言いたいその言葉を飲み込んだ。確かに、娘に「仏文？ 仏文をやるなら、日本よりフランスだよ」と言ったことがある。

娘の選択・親の決断



日高 定昭(商)

親の不安・娘の頑張り
フランスの大学はバカロレアといわれる「大学入学資格」を取得すれば入学(登録)できる。外国人には別に大学入学準備コースを大学が持つていて、その終了資格(特にフランスの大学で講義に付いて行ける語学力が問われる)が大学入学の条件になる。しかし、フランスの大学は入学はやさしいが卒業は難しい。たとえばソルボンヌと呼ばれるパリ第4大学の入学者の半分は、2年を終えないうちに脱落する。最低年限(フランスは3年である)で卒業できるのは入学者の2割にすぎない。

フランスはまた「自由」「平等」「博愛」の国である。世界中からフランスの地を目指し外国の学生が訪れる。イタリア、スペイン、ポルトガルの学生は同じ系統の語学であるから、すぐに上達する。アジア系の学生はそうは行かない。しかし厳密にその基準は「平等」である。アジア系の学生は脱落するか、困る食いついて努力するかのどちらかである。

娘は3年後、フランスの大学入学資格を取得して昨年6月に帰ってきた。そして昨秋、次の選択を待っている私の前に示されたのは首都圏の国立大学の合格通知であった。それまでの経験が認められての社会人・特別枠である。専攻は「企業関係法」であるという。ちょうどライブドア関連の記事に親子の話は弾んだ。そして今、フランスの学生のようにすべての教師の講義の良し悪しをコメントする。いまはやりの生の「授業評価」である。それを私の授業改善に役立てている。
娘の「選択」を遮れなかった私の「決断」が間違っただけだったと思うこの頃である。

2005年度
総会のお知らせ

「49年白門会」の2005年度の総会が開かれます。今回は設立5周年という節目の総会になります。

総会では、同期で弁護士の方の山崎司平さんの講演があります。最近注目されている犯罪被害者支援のお話を予定しております。

総会終了後、懇親会もありますので会員の皆様のご出席をお待ちしております。

日時：平成17年7月23日(土)

午後3時～時半より受付開始

場所：中央大学理工学部校舎

(東京都文京区春日1-13-27)

懇親会：午後4時～6時、同校舎

会費は5千円です。

広告募集

この会報を作る費用を広告収入である程度賄う予定です。広告スペースを5千円で提供しますので、協力お願い致します。原稿の版下があればそのまま使いますが、無ければ広告原稿を広報部で作成します。お申し込み、ご相談は事務局までご連絡ください。

山崎司平法律事務所

第二東京弁護士会所属
日本弁護士国民年金基金常務理事
中大法学部非常勤講師

辯護士 山崎 司 平

東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階
電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

主要取扱申請書類等

- ◇ 建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇ 風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇ 外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇ 遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行

行政書士 増田勝美 電話 03-3491-9880

満開!!花見行

橋本哲郎(理工)

4月9日土曜日開催の「お花見」

は、葉桜を心配していたのですが、我々にタイミングを合わせたように桜の花は満開で、絶好のお花見日和でした。14時30分には飛び入りの葛西さんを含め14名が、靖国神社近くの「昭和館」入口に集合し、館内見学からスタートです。この昭和館は戦中・戦後の暮らしを後世に伝える目的で建てられたそうで、地下鉄の九段下駅のそばにあります。

見学後、千鳥ガ淵の桜を見ながら山種美術館へのんびり歩く予定でしたが、昭和館から千鳥ガ淵への歩道は満員電車状態でお花見どころではありません。「何で日本人はこんなに桜が好きなのかね」とブツブツ言いながら通常5〜6分の道程を30分も掛けて、それも千鳥ガ淵まで行けず回り道をして行きました。

山種美術館は日本画専門の美術館で、当日は桜をテーマにした日本画が展示されており、普段美術品とは縁のない生活をしているだけに、とても新鮮でした。こんな素晴らしい機会と招待券を頂き、同期の小澤さんに感謝です。記念撮影後、靖国神社に向かいます。千鳥ガ淵ほどではないものの、混雑はさすがに桜の名所といった感じです。靖国神社から市ヶ谷駅に向かう途中は桜吹雪です。もう場所によっては散り始めている



のです。

市ヶ谷駅の手前で内濠公園方面に右折。ここは千鳥ガ淵と違い、それ程混んでなく、お濠を挟んだ反対側の土手の桜が見事でお勧めスポットですね。桜のトンネルを歩いていると、東京とは思えないほど自然の中にいるといった感じでした。

予定通り17時に飯田橋駅前に到着夕方から仕事が入っている葛西さんと別れ、13名全員居酒屋へ直行。お酒が入ると、さつきまでの疲れた顔が生きて生き返るのが不思議です。半ば貸し切り状態の居酒屋で大いに盛り上がり、最後に残った全員で記念写真を一枚。参加者の皆様お疲れ様でした。

楽苦我喜 浜手 基親(文)

生まれは、富山県氷見市。能登半島の付け根、富山湾の西に位置する。兼業農家の長男。自宅から歩いて5、6分の所に白砂青松の海辺が広がり、自然環境に恵まれていた。夏は家で海水パンツをはき、海まで走って行ってドボンと飛び込んだ。思春期には彼女にふられた心の傷を癒しに、誰もいない秋の海に立ち、波打ち際に棒切れで「バカヤロー」と書いたりもした。

初めて東京に行ったのは、昭和38年の夏休み。小学6年生だった。山手線で有楽町辺りに差し掛かると、銀座の森永製菓だったと思うが、地球儀をかたどったようなネオンがきらびやかで、やけに大きく見えた。「ここが日本一の繁華街か」。それまでテレビでしか見たことがなかった光景が目前にあり、興奮したのを覚えている。

中学の修学旅行でも東京へ行った。氷見から列車で北陸線、高山線に乗り名古屋へ。東海道新幹線は熱海で降り、箱根・強羅温泉で一泊。2日目は鎌倉大仏などを見学後、羽田飛行場(当時は空港とは言わなかった)へ。背丈より大きなタイヤの展示にびっくりした。本郷小石川だったか、日本旅館で2泊目を迎えた。枕投げもやった。バスで日光東照宮へ行き、木彫りの茶筒を土産に買った。浅草国際劇場で映画を見た後、上野駅から夜行で帰る。朝になったら長野・善光寺の門前にいた。朝食はタケノコ飯に赤だしのみそ汁付きだった。車中泊を含め3泊4日の修学旅行は、特別なこともなく終わった。

中学、高校と地元で暮らし中央大学へ入った。大学には全国から集まってきた。札幌のS君、長崎のO君、愛媛のZさん、秋田のSさん(女性はいずれも旧姓)。都内、首都圏、大阪など都会出身者も多かった。東京と地方のバランスが旨く取れていた。女性の中にはお孫さんがいる人も多いただろう。おじいちゃんになった人もいるかもしれない。50代半ばは若いのか年寄りなのか、自分自身はつきりした自覚がない。体力はやや衰え気味だが、気力は充実、…と言えば格好いいが、すべてそうとも断言できない。また、すねかじりの子があり、これからは腕まくりを2度3度としなければならぬことだけは間違いないさそうだ、60代へ向け、青春パワーを燃焼させたい。

電気設備・設計施工 FUNAMI
 栃木県庁 宇都宮市役所指定 関東一円
株式会社 船見組
 代表取締役社長 **船見 二三男**
 〒320-0014
 栃木県宇都宮市大曾5丁目3番6号
 TEL 028-622-0321 (代)
 FAX 028-624-4499

永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦

名セリフの力

—日本語をきたえる76のことば—

NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著

「知らざア言って聞かせやしょう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話力を強くする。

四六判上製 278頁 定価1780円(税込)

展望社 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063

